

なんばたはいすい 南畑排水機場

しんがし こうすい あら はいすい
～新河岸川の洪水を荒川へ排水～

しゅつすい はいすい りゅういき
出水時には最大毎秒60m³を排水し流域の水害を低減します。



なんばたはいすい
南畑排水機場



エンジンフロア



あさか 朝霞水門と朝霞調節池

なんばたはいすい 南畑排水機場

富士見市にある南畑（なんばた）排水機場は、新河岸川の水を荒川に排水するため1986（昭和61）年に完成しました。新河岸川流域は降雨が河川に集中する傾向があり、1984（昭和59）年9月洪水では大きな被害も受けています。

新河岸川の治水安全度を向上させるため、南畑排水機場の他、朝霞水門（1995（平成7）年完成）や朝霞調節池（2008（平成20）年度完成）を整備しています。



▶ なんばたはいすい 南畑排水機場のスペック

1986（昭和61）年に完成したなんばたはいすい南畑排水機場は、増水時の新河岸川の水を、新河岸川放水路・びん沼調節池を経て、機場のポンプで荒川に強制的に排水します。排水機場、放水路、調節池などの一連の施設は、浸水被害が絶えない新河岸川流域の治水施設として整備されたもので、排水機場は荒川上流河川事務所が、放水路、調節池は埼玉県が施工しました。排水機場のポンプの排水能力は、30立方メートル／秒×2台。直径3.6mの巨大な羽根車を回転させて1秒間にドラム缶300本分の排水を行います。

【なんばたはいすい 南畑排水機場諸元】

- ・完成年：昭和62年3月（排水機場完成：2台）
- ・形式：立軸渦巻斜流式
- ・総排水量：60m³/s（主ポンプ2台）
- ・排出量：30m³/s
- ・口径：3600mm

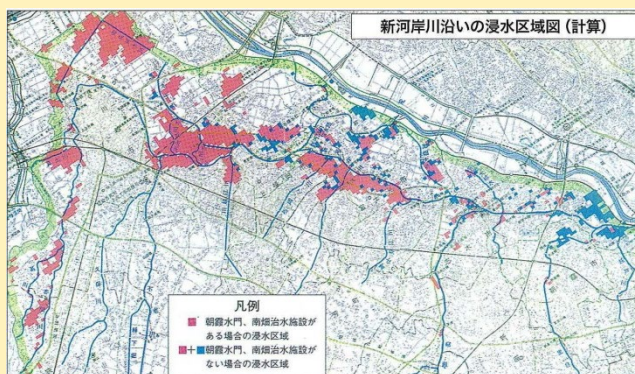


▶ なんばたはいすい およ あさか 南畑排水機場及び朝霞水門による効果（平成11年8月洪水）

1999（平成11）年8月の豪雨（治水橋地点及び熊谷地点において、観測開始以来最高の水位を記録）を、朝霞水門及びなんばたはいすい南畑排水機場がない場合とある（現況条件）場合とで浸水面積を再現計算すると、朝霞水門及びなんばたはいすい南畑排水機場により30%の被害軽減が図られました。

朝霞水門については、述べ14時間にわたり水門を操作したことで水門地点で最大1.1mの水位を低減し、新河岸川から1,050万m³（東京ドーム約10杯分）の洪水を荒川へ排水し、新河岸川下流部への洪水負担を軽減しました。

また、なんばたはいすい南畑排水機場については、2台のポンプを述べ75時間稼働したことで、放水路分流地点で最大約0.8mの水位が低減し、浸水被害の軽減に効果を上げたものと考えられます。



コラム 昭和57年9月洪水 ～なんばたはいすい 南畑排水機場ができる前の被害状況～

本州を縦断した台風18号の影響で荒川上流域に大雨が降り、新河岸川では総被害額211億円、新河岸川流域の朝霞市、志木市、富士見市で浸水家屋9,285戸と甚大な被害を受けました。

この災害で新河岸川は、国の激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、集中的な河川改修工事が実施されました。



朝霞市田島



富士見市水谷東3丁目

アクセス

なんばたはいすい 南畑排水機場

交通：東武鉄道「鶴瀬駅」下車、富士見市内循環バスふれあい号「老人センター線」乗車、「東大久保中」下車、徒歩約30分

住所：埼玉県富士見市大字下南畑地先

※一般の方の立ち入りはできません。見学については荒川上流河川事務所にお問い合わせください。

